

道徳科の基本方針

1 道徳科で目指す子ども

様々な事象を道徳的価値についての理解を基に、自己とのかかわりで多面的・多角的にとらえ、自己の生き方についての考えを深める子ども

道徳科を通じて育成する資質・能力は、人間としてよりよく生きようとする道徳性(道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度)である。道徳性は、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性である。つまり、道徳科ではよりよい行為を自ら選択, 判断し実行できる人間を育むことを目的としているのである。

目指す子どもの姿を具現するためには、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題にとらえ、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと授業の転換を図ることが求められている。

問題解決的な学習では、児童一人一人が道徳的諸価値のよさを理解し、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。そして、実感を伴って理解した道徳的価値を自分なりに発展させていこうと考え、これから自分の課題や目標を見付けることができるようにする。そのためには、ある事象(読み物教材の場面など)に出合ったとき、それを自分自身の問題としてとらえることが大切となる。自分自身の問題としてとらえることで「自分なら〇〇する。理由は、△△だから」と自分のこととして考えることができるからである。そして、他者(友達)と話し合い、自分とは異なる感じ方や考え方に触れることで「どうすることがよりよいか」と考えることができる。

授業を通して、ある事象に対しての自分の感じ方や考え方について自覚し、他者との議論を通して、新たな感じ方や考え方と出会う。そして、これからの自分自身の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として表現していこうとする。この一連の姿が、当校道徳科で目指す子どもの姿である。

2 豊かに考える子どもを育む授業づくり ○ 第5学年

物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方についての考えを深める子ども

剣は、第5学年において、読み物教材を使用し、「考え、議論する道徳」の授業を行う。子どもには、物事を広い視野から多面的・多角的にとらえ、よりよく生きるための力を身に付けさせたい。

そのために、子どもが自分の生活経験から考えられるような教材を使用する。改作を行う際の要件は、二つある。一つめは、登場人物同士の関係をできるだけ詳細に設定すること。二つめは、子どもに気付かせたい道徳的価値についての記述を削除すること。

授業での教材提示は、場面の状況を再現しながら読み聞かせる。子どもは価値観を表出し、教材と自己をかかわらせて考える。次に、学ばせたい道徳的価値に向かわせるために議論の柱を設定する。議論を通して、子どもは自分とは異なる価値観に触れる。そして、「どうすることがよりよいか」「人としての正しさは何か」等と新たな考えを見いだす。最後に、自分が考えた過程を振り返らせることで、目指す姿を具現する。

3 道徳科で育成する資質・能力

	低学年	中学年	高学年
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○よいことと悪いこととを区別し、自分自身のよさに気付き、規則正しく素直でいることの価値 ○家族や友達、日頃お世話になっている人に対して感謝したり親切にしたりすることの価値 ○きまりを守り、みんなを大切に思うこと、父母、祖父母を敬愛し、郷土に愛着をもつことの価値 ○生命を大切に思い、自然に親しみ美しいものに触れ、すがすがしい心をもつことの価値 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身を知り、長所を伸ばそうとすること、最後まで粘り強くしようとするものの価値 ○家族や高齢者に尊敬や感謝をすること、友達と信頼し合い、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大事にするものの価値 ○きまりの意義を理解し、誰に対しても公平公正な態度で接すること、家族みんなで協力し合うこと、学校の人々を敬愛し、国や郷土を愛し他国の文化に関心をもつことの価値 ○生命あるものを大切にし、自然の素晴らしさを感じ、美しいものに感動することの価値 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身について短所を改め、自分の生活を見直し、くじけずに努力してやり抜くこと、真理を大切し物事を探究しようとするものの価値 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、多くの人々に感謝し、友達、異性についても理解し、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの価値 ○法やきまりの意義を理解し、誰に対しても差別せず、公共のために役立つこと、家族の幸せを求め、様々な集団の中での自分の役割を自覚すること、国や郷土を愛し、他国の文化を大切に国際親善に努めることの価値 ○生命が多く生命のつながりの中にあることを理解し、自然環境を大切に思い、人の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと、人間として生きる喜びを感じるものの価値
② 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方を想起して考える力 ○相手の立場になって気持ちを考える力(相手の立場に立って考える力) ○それぞれの場面において善悪を考える力 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分とは異なる友達の考え方、感じ方を受け入れ「自分はどうするか」を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分とは異なる友達の考え方、感じ方を受け入れて、よりよい解決を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分とは異なる友達の考え方、感じ方を受け入れ、よりよい解決を見だし、「自分はどうするか」を根拠を明確にして考える力
	○物事(教材の場面)を多面的・多角的に考える力		
③ 態度	○道徳的価値のよさを実感を伴って理解し、正しいことをしようとする態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ○自己を肯定的に受け止めるとともに、他者とのかかわりや身近な集団の中での自分の特徴を知り、自己についてみつめようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ○自立的な生き方や社会の形成者としての在り方について自ら考えたことに基づいてよりよく生きるための行為を選択しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい自分を求めて自己の確立を目指すとともに、一人一人が他者と共に心を通じ合わせて生きようとする態度

4 道徳科の学習で働かせる見方・考え方

	低学年	中学年	高学年
見方・考え方	○様々な事象を道徳的諸価値を基に自己とのかかわりで多面的・多角的にとらえ、自己としての生き方について考えること		

